



海外体験学習プログラム

「タイ王国での体験学習プログラムは、私にとってたくさんの驚きと、たくさんの気づきを得られたプログラムでした。2004年に起きたインド洋大津波の被災地を訪れ、そこで学んだことをネパールや日本に活かすというテーマのもと、多くの被災地を訪れ、様々な体験をしてきました。しかし、震災や防災という枠組みだけではなく、タイという国の様々なことを知ることができる内容であったように思います。そして、タイという国について知れば知るほど、日本との違いに気づかされ、タイだけではなく日本についてももっと知りたいと思うようになりました。日本以外の国を知ったことで日本を客観的に見て考える視点に気づけたこと、そして、日本の現状や政治にも関心を持てるようになったことが、このプログラムを通して一番成長できたことだと感じています。」

タイ王国プログラム参加学生の声



「プログラムの前半では徳山ダムや旧坂内村への訪問、そしてラーニングアーバー横蔵・樹庵での小林校長からのお話、地域の方々との楽しい交流会、垂井地区の散策を垂井町街角案内の会の不破さんにしていただき、垂井町の特徴などを学びました。

後半はフェアトレードについて全国の大学生たちと一緒に学びながら、考え、そして議員の方々との交流やアクションプランで意見を出し合うなど、人生で初めての経験を積むことが出来ました。

新たな出会いや学びが、ぎっしり詰まった4日間のプログラムでした。」

国内体験学習プログラム参加学生の声

国内体験学習プログラム

「現在、台湾では学生を中心としたグループが教科書改訂の問題や原子力発電所の建設問題で運動を行い、その動きが活発になっています。彼らの積極的な運動を促すものは何なのか、台湾の人々にとって民主主義とは何なのかを考え、学ぶ一週間のプログラムでした。

最も自分にとって有意義だったのは、教科書改訂問題で政府への抗議活動をする学生たちとの交流です。台湾の歴史で重要な部分を教えずに中国の歴史観に沿って教科書を作り、人権侵害の事実をうやむやにしようとする政府への怒り、歴史認識への葛藤などを彼らは語ってくれました。今声をあげないでいつ声をあげるのかという切迫感私たちが感じたことのないものでした。

一つの国としての台湾を求め、民主主義を求める闘いに参加した世代が現代の市民運動の下地を作り、連綿として『自分たちの国は自分たちで創る』という精神が受け継がれているのだと実感しました。」

台湾プログラム参加学生の声